

百日咳が流行しています！！



どんな病気？

百日咳は、百日咳菌による感染症です。一年を通じて発生がみられます。

乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあり、生後6か月未満では死に至る危険の高い病気です。症状が出たら早めに受診しましょう。

成人では、比較的軽い症状で経過することが多く、受診・診断が遅れ感染源になることがあります。乳児の周りでは特に注意が必要です。

どうやって感染するの？症状は？

主に、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌によって感染します（飛まつ感染）。

7～10日程度の潜伏期間を経て、風邪症状がみられ、徐々に咳が強くなっていきます（カタル期：約2週間）。その後、短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるという症状を繰り返します（痙咳期：約2～3週間）。激しい咳は徐々におさまりますが、時折、発作性の咳がみられます（回復期：2～3週間）。

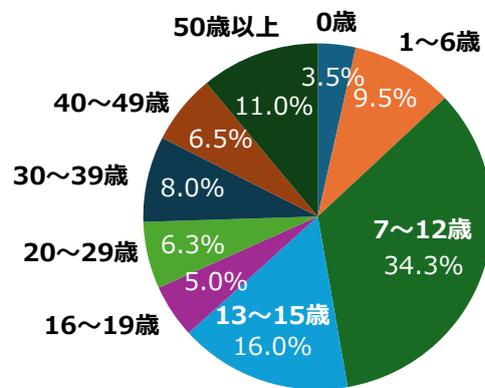
どれくらい多いの？

都内の2023年の報告数は116件でしたが、2024年は400件と3倍以上に増加しています。

年代別では15歳までの報告が6割以上ですが、成人でも報告されています。また、接種後時間が経つと、百日咳に対する効果が低下することが知られており、百日咳含有ワクチン4回接種者の報告数は194人と半数近くになっています。

2025年11週時点で既に267件と増加傾向が続いています。

2024年 年代別報告割合 n=400



予防や治療法は？

有効な予防法は予防接種で、予防接種法に基づく定期予防接種が行われています。2か月に達したら、早めに5種混合ワクチン¹⁾を接種しましょう。

また、定期予防接種により百日咳の免疫を得ていても、小学校就学前にワクチン効果が薄まるため、日本小児科学会では任意での3種混合ワクチンの2回追加接種を推奨しています²⁾。

(① 学校就学前の1年間、② 11-12歳)

予防接種による免疫効果の持続は5～10年程度ですが、ワクチン接種により、百日咳にかかるリスクを80～85%程度減らすことが出来ると報告されています。

治療は、主にマクロライド系の抗菌薬で行います。

1) 2024年4月1日より4種（ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ）混合ワクチンにHibワクチンを含んだ、5種混合ワクチンが導入されました。

2) 百日咳ワクチン接種推奨ポスター（日本小児科学会） https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20191002_hyakunichizeki.pdf